

小学校 外国語活動 の事例

「言語活動の充実」に関する指導資料

設定した言語活動を通して育てたい力

- 自分の行きたい国について、内容や順序を考えて、紹介することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 外国語活動
□ 学年 第6学年
□ 単元名 行ってみたい国を紹介しよう
□ 本時の目標 自分や相手の行きたい国について進んで交流する。
□ 学習の流れ（3・4時間目／全4時間）

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 （評価方法）
第3時	○ クイズカードを作る。 ①自分の行きたい国を決める。 ②その国に行きたい理由と国旗について書く。 ③ヒントに使うものを4つ選び、どの順番にヒントを出すか考える。	第4時の「3 行きたい国を発表する活動」に向けて、第3時の中に、クイズカードを作る時間を設定しました。 ・第1時・第2時で学習したモデル文や内容を参考にしながら考えさせる。 ・ワークシートを用いて、相手にだんだんとわかるヒントの順番を考えさせる。	
第4時	1 目標を知る。 自分の行きたい国とその国で何がしたいのかを積極的に紹介し、友達の行きたい国をあてよう。 2 復習をする。 ○歌やチャンツなどで復習する。 3 行きたい国を交流する活動をする。 ①2人組になる。 ②自分が行きたい国について4つのヒントを順番に紹介していく。 ③相手が答える。 ④交代する。 4 本時の活動を振り返る。 ○本時のめあてができたかどうか振り返る。 ○友だちの良かったことについて発表する。	・本時の目標と活動内容を知らせる。 ・第1時～第3時で使った歌やチャンツを用いて、活動3で児童に使わせたい表現に慣れさせる。 A: Hello. B: Hello. A: Where do you want to go? B: Guess where? The flag is green, red and white. A: Hint, please. B: I want to see the Mouth of Truth. A: Hint, please. B: OK. I want to eat pizza. A: Canada? B: No. No. Last hint. I want to see Trevi fountain. A: Italy? B: That's right. I want to go to Italy. ・やりとりの仕方に困った児童に対応できるようヘルプコーナーを設ける。	・自分の行きたい国を積極的に紹介しようとしている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕（行動観察、振り返りカードの記述） ・相手の話す内容を積極的に理解しようとしている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕（行動観察、振り返りカードの記述）

指導のポイント

考え・情報を選択・整理するためにワークシートを活用させる

- コミュニケーションを図る楽しさを体験させるために、相手に興味・関心をもたせ、相手がだんだんとわかるヒントの出し方についてワークシートを活用して考えさせています。最初に、本単元の第1時・第2時で慣れ親しませてきた表現「～したい」と国旗の説明の仕方を参考にして、どこの国に行きたいかとその国でやりたいことと国旗についての情報を書かせます。次に、それらの中から、4つのヒントを選択し、どういう順番で言えば、相手がだんだんと分かるようになるかを考えさせます。

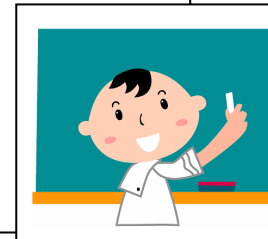
1 行きたい国は（イタリア）です。

その国でやってみたいこと

- ・「トレビの泉」を見たい
- ・サッカーを見たい
- ・「真実の口」を見たい
- ・ピザを食べたい
- ・スパゲッティを食べたい

国旗について

- ・旗の色は緑と赤と白
- ・形は3つの四角形



2 表に4つヒントを書きます。ヒントはどの順番に出すかよく考えてください。

第1ヒント	国旗の色（緑と赤と白）
第2ヒント	「真実の口」を見たい
第3ヒント	ピザを食べたい
第4ヒント	「トレビの泉」を見たい

どうすると、友達は楽しく考えてくれるかな？
だんだんと分かるようなヒントの順番にしよう。

児童のワークシートより

聞いてみたい、話してみたいという思いをもたせるために、聞く・話す必然性のある場面を設定する

- 各単元に設定されている表現等を使用させる場合には、聞く・話す必然性がある場面設定をすることが大切です。本時では、クイズ形式を用い、聞く・話す必然性がある場面を設定することによって、児童が外国語でコミュニケーションを図る楽しみを感じながら、さらに聞いてみたい、話してみたいという思いをもつようになります。

新学習指導要領では

外国語を聞いたり話したりする活動で、積極的にコミュニケーションを図る態度を育むことを重視

- 今回の改訂で、新設された外国語活動では、外国語を聞いたり話したりする言語活動を通して、外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験し、積極的にコミュニケーションを図る態度を育むことを目指しています。
- 第4時の学習活動3の「行きたい国を発表する活動」では、自分の説明が徐々に相手に伝わる楽しさを感じ、相手の行きたい国をヒントを参考にしながら言いあてる楽しさも感じます。このことが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することへとつながります。